

Good Job! Award / Exhibition 2017 – 2018

これからのしごと・はたらき方をつくる

全体概要

2017年9月1日

Good Job! プロジェクト 事務局

一般財団法人たんぽぽの家、一般社団法人北海道チャレンジドアートプロダクツ
NPO 法人エイブル・アート・ジャパン、NPO 法人まる

Good Job! Award / Exhibition の目的

社会背景

約 788 万人の障害のある人のうち約 4 割が在宅で、その多くが無職というのが社会の現状です。「働き方改革」と謳われている中で、それを実現するための選択肢は少なく、企業や NPO、そして自治体もまだ答えを探っています。

障害のある人たちの平均月収は、置かれている環境によって大きく異なりますが、年々増えつつあります。しかし、一人ひとりが自立して生活できるほど十分な収入を得ているとは言い難い状況です。

「障害」や「福祉」の課題はマイノリティの課題ではなく多くの人にとっての課題ととらえています。しごとの幅をひろげ、多様な選択肢の中から、はたらき方・生き方を選ぶことができる社会の実現を目的としています。

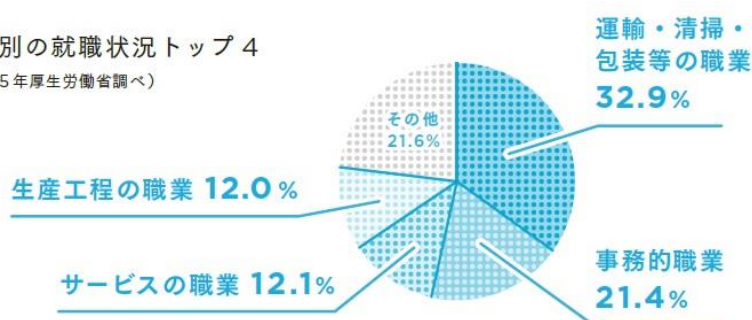
就労継続支援事業*の
平均月収
(平成 25 年厚生労働省調べ)

約 **22,000 円**

一般労働者の平均月収
(控除前、残業代込み
/平成 25 年厚生労働省調べ)

約 **324,000 円**

職業別の就職状況トップ 4
(平成 25 年厚生労働省調べ)



※ 福祉施設などで継続的に就労可能な人と雇用契約を結ぶ「就労継続支援 A 型事業」（平均月収約 69,000 円）と、雇用契約を結ばない「就労継続支援 B 型事業」（平均月収約 14,000 円）がある。

障害のある人たちと、社会のはたらき方をデザインする取り組み

2012 年、障害のある人の表現から生まれた魅力的なプロダクトを紹介する展覧会「Good Job!」を大阪で初めて企画・開催。2013 年から「Good Job! Exhibition」として、障害のある人との協働による新たなしごと・はたらき方を紹介。これまでに北海道・宮城・東京・愛知・大阪・兵庫・福岡・大分など全国で開催しています。世にひろめるべき取り組みを発見・発信することを目的とした「Good Job! Award」を開催。福祉の垣根を超えて、異分野と連携し、既成の労働観を変えることを目指しています。

Good Job! Award / Exhibition 実施内容

Good Job! Award 2017

多様化する価値観のなかで、私たちのライフスタイルは大きく変化しています。“ものづくり”や“はたらき方”も見つめなおされ、一人ひとりの可能性に向きあうしごと、はたらきやすい環境、はたらきがいが生まれる仕組みや社会のあり方が求められています。

そのヒントは障害のある人のしごとや生活のなかにあると考え、既成の労働観にとらわれない現場から、先駆的・革新的・実験的な取り組みをひろく募集し、展示会やメディアを通して社会に発信します。

募集期間：2016年8月18日（金）～10月18日（水）

一次審査：2016年11月7日（火）loftwork COOOP（東京都渋谷区）

最終審査：2017年2月18日（日）渋谷ヒカリエ 8階 8/COURT（東京都渋谷区）

Good Job! Exhibition 2017-2018

福祉の領域をこえて、アート・デザイン・ビジネスとの協働によるしごとづくりを紹介する場です。さらに今年度は、「IoTとFab」をテーマにした企画展も実施。

会期：2017年2月17日（土）～2月20日（火）

会場：渋谷ヒカリエ 8階 8/COURT（東京都渋谷区）

予定来場者数：5,000名

Good Job! セミナー

Good Job! Award の入選者の取り組みを紹介し、これからの新たなしごとづくり・はたらき方を考え、語りあうセミナーを開催します。



最終プレゼンテーションおよび展示会会場の様子

Good Job! Award 審査員



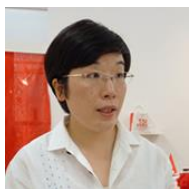
田村大（株式会社リ・パブリック共同代表）

博報堂イノベーションラボ上席研究員を務め、併行して東京大学にイノベーション人材育成プログラム「i.school」を立ち上げ、ディレクターを務めた後、独立。福岡を拠点に、地域や企業が自律的にイノベーションを起こす生態系の研究とデザインに携わる。



里見喜久夫（季刊『コトノネ』編集長）

全国の障害者施設、就労支援施設、特例子会社の経営改革に関する様々な提案をおこなう雑誌・季刊『コトノネ』を2012年1月に創刊。震災復興、福祉起業家、スポーツなど障害のある人たちがいきいきとはたらく現場を見つめ続け幅広い価値観を紹介している。



柴崎由美子（NPO 法人エイブル・アート・ジャパン 代表理事）

障害のある人たちとともに対話・創作・仕事開発・復興活動などを実施。障害者アートの社会的意義を問う活動をライフワークにしている。たんぼぼの家アートセンターHANA ディレクターを経て、エイブルアート・カンパニー事務局。2013年より現職。



原田祐馬（アートディレクター / デザイナー）

グラフィックデザインを中心に、地元の人と密着した形で、さまざまな関係を編みながらプロジェクトに携わる。DESIGNEAST ディレクター、小豆島醬の郷+坂手港プロジェクトディレクターなど。2015年より京都造形芸術大学空間演出デザイン学科客員教授。



林千晶（株式会社ロフトワーク 代表取締役）

2000年に起業。Webデザイン、ビジネスデザイン、コミュニティデザイン、空間デザインなど、手がけるプロジェクトは年間200件を超える。グローバルに展開するデジタルものづくりカフェ「FabCafe」を運営。株式会社飛驒の森でクマは踊る代表取締役社長も務める。



山田遊（株式会社メソッド 代表取締役）

2007年にmethodを立ち上げバイヤーとして活動を始める。国立新美術館内ミュージアムショップ「スーベニアフロムトーキョー」のサポートディレクションをはじめ、ファッション・デザイン・工芸・食など様々な分野で生まれるモノに携わり店づくりを中心に手がける。

Good Job! Award / Exhibition の社会的意義

①障害者雇用に対する発想の転換

障害のある人が地域で暮らし、地域の一員として共に生活できる社会の実現に向けて、すべての事業主に法定雇用率以上の割合で障害のある人を雇用する義務があります。平成 30 年(2018 年) 4 月 1 日からその割合が引き上げになります。

事業主区分	法定雇用率	
	現行	平成 30 年 4 月 1 日以降
民間企業	2.0 % →	2.2 %
国、地方公共団体等	2.3 % →	2.5 %
都道府県等の教育委員会	2.2 % →	2.4 %

ただ、「義務だから雇用する」とネガティブな捉え方ではなく、

- (1) 障害のある人のはたらき方を考えることは全社員のはたらき方を考えること
- (2) 障害のある人を「支援する」ではなく「一緒に事業をつくる」ことができる
といった発想が、Good Job! Award / Exhibition にはあります。

②QWL(Quality of Working Life : 労働生活の質) の向上

「働き方改革」が謳われるなか、一般に労働の改善といえば「賃金」「労働時間」といった雇用条件の改善を意味します。具体的には、①安全・衛生などの物理的条件の改善、②賃金・時間・諸手当などの雇用条件に関する改善、③病気・失業に対する保障、④ワークライフバランスのように仕事と生活の満足度の向上などが挙げられます。

そこでは、作業内容など具体的な働き方それ自体の改善は見過ごされ、多様な人を受け入れることはできていません。ベルトコンベア作業方式に見られる単調な作業に対して、人間の多様な能力を活用するような新しい組織の形成が求められています。「職務転換」「職務拡大」「職務充実」などの新しい仕組みを生みだし、“人間らしい労働”に対するヒントが Good Job! Award / Exhibition にはあります。

③SDGs (持続可能な開発目標) の達成に向けた取り組み

SDGs (sustainable development goals) は、2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」で、2016 年から 2030 年までの国際目標です。Good Job! Award / Exhibition を通じて「障害」から社会を考え変革していくことは、17 個のアジェンダの中の「1. 貧困をなくそう」「8. 働きがいも経済成長も」「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」「10. 人や国の不平等をなくそう」「11. 住み続けられるまちづくりを」の達成につながります。

Good Job! Award / Exhibition 入選・出展事例

【Good Job! Award 大賞】

はじまりは一本の糸から～

NPO 法人ひょうたんカフェ

一人ひとりの個性を「織り」という表現に昇華させると同時に、「織り」を通じて個性や関係性のひろがりを生み出しています。ただ自由に織ることだけでなく、模様や色の組み合わせで個性を表現。例えば、るりさんが織った



ら「るり織り」と顔が見えるような個性の引き立たせ方は、「自分だったら何織りにしようかな」と想像させます。名前をつけることによりコラボレーションがしやすくなり、選択する側の立場を考えているからこそ、企業との協働の展開があります。さらには、伝統工芸の継承問題へのアプローチという視点からも評価されました。

【Good Job! Award 準大賞】

型染鯉のぼり一つながりの鯉のぼり

NPO 法人 La Mano

しっかりとした所得をつくるしごとづくりと、安心して関わりを繋げる環境づくりを実現しています。型染による鯉のぼりは即日完売するほどの商品の質の高さ、分業の仕組みの巧みさ、また所得を3倍にするなど実質的



な結果も出しています。鯉のぼりのみならず、スウェーデン刺繍やアート活動、地域に向けて体験講座の開催、ボランティアが年間延べ600人も関わるなど、多様なしごとや関わりも生み出します。しごとをする・生きていくための精神的・経済的自立を促す取り組みとして、ものづくりを手がける事業がめざすあり方の1つになると評価されました。

2017年度の新規の取り組み

(1) Good Job! 基金による継続的応援の仕組みづくり

Good Job! Award を一過性のイベントで終わらせることなく、入選取り組みに対して継続的な応援をすることを目的に設立したのが「Good Job!基金」です。公益財団法人パブリックリソース財団を通じて設立した基金で、2017年4月から12月まで寄付を募り、大賞・準大賞・入選を受賞した12の取り組みに対して2018年1月に配分し、活動資金、製品の開発、道具の購入、学ぶための機会など、入選者が見つけている先にある“しごと・はたらき方”に貢献できる基金を目指します。

(2) デザイン合宿による入選者同士の交流&ブラッシュアップ

「入選者同士もしくは過去の入選者と交流を深めて次の展開につなげたい」「展示やプレゼンテーションなど、どのように魅せるべきかを学びたい」という意見をふまえ、入選者が集い、デザイナーや編集者によるレクチャーと、取り組みをブラッシュアップするワークショップを開催します。企業の方々とも「ダイバーシティ・マネジメント」や「インクルーシブ・ワークプレイス」についての勉強会や研修の場として開きます。

(3) 「IoT と Fab」に関する企画展示およびフォーラムの開催

新たなしごとづくりのアプローチとして「IoT (Internet of Things)」「Fab (Fabrication)」による可能性を探ります。現在、福岡・山口・岐阜・奈良で行なっているIoT と Fab による新たなしごと・はたらき方づくりの社会的実験を発信します。

年間スケジュール

8/18 ~ 10/18	Good Job! Award 募集	
11/7	Good Job! Award 一次審査会	
12/2 ~ 12/3	デザイン合宿	
2/17 ~ 2/20	Good Job! Exhibition	
	2/17	Good Job! セミナー
	2/18	Good Job! Award 最終審査会 & プレゼンテーション
	2/19	IoT と Fab と福祉フォーラム
	2/20	Good Job! セミナー

制作物

- Good Job! Award 募集チラシ 3,000 部
- Good Job! Award Web サイト <http://award.goodjobproject.com/>
- Good Job! Exhibition 告知チラシ 10,000 部
- Good Job! Exhibition 会場用映像 参考) <https://vimeo.com/205413411>
- Good Job! Exhibition Web サイト <http://exhibition.goodjobproject.com/>
- Good Job! セミナー 告知チラシ 4,000 部
- Good Job! Document Vol. 7 10,000 部



GOOD DESIGN AWARD 2016 グッドデザイン金賞

公益財団法人日本デザイン振興会が運営しているグッドデザイン賞に、障害のある人とつくる新しいはたらき方「Good Job!プロジェクト」が選出されました。さらにグッドデザイン金賞は、ベスト 100 の中から先進性と社会性を兼ね備えた現在におけるきわめて優れたデザインと認められるものに授与される賞です。2016 年度は応募数が過去最大規模の 4,085 点を超える中で 19 件のプロダクト・取り組みが金賞に選定されました。



【お問い合わせ】

Good Job! プロジェクト事務局

〒630-8044 奈良県奈良市六条西 3-25-4 一般財団法人たんぼぼの家 (内)

TEL. 0742-43-7055 FAX. 0742-49-5501 MAIL goodjob@popo.or.jp

H.P. <http://goodjobproject.com/>